

大江健三郎さん死去

ノーベル文学賞作家

88歳 平和、護憲の活動展開

戦後日本を代表する文学者で、平和、護憲の言論活動でも知られるノーベル文学賞作家の大江健三郎（おえ・けんざぶろう）さんが、3日未明、老衰のため死去した。88歳。愛媛県出身。葬儀は家族葬で行った。後日お別れの会を開く予定。

東京大仏文科在学中から 年に「飼育」で芥川賞を受 地歩を築き、独自の小説世作家活動を始め、1958 賞。早くから作家としての 界を切り開いた。

その後、障害のある子と生きる決意をした男性を描く「個人的な体験」など自身と家族をモデルにした作品を発表。故郷の四国の森を舞台にした「万延元年のフットボール」などを発表、数々の文学賞を受け、翻訳されて海外でも注目された。

94年に日本人として川端康成に次ぐ2人目のノーベル文学賞を受賞した。

戦後民主主義の思想を基に平和、護憲を主張。「ヒロシマ・ノート」「沖縄ノート」を著した。東日本大震災後は脱原発を積極的に訴えた。



インタビューに答える大江健三郎さん（2015年7月、東京都内の自宅）